

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>8. 反比例</p> <p>(1) 反比例の対応表をつくる 正答率は67%である。対応表を完成する問題であるが、<math>x</math>と<math>y</math>の変化を見ないで、<math>y</math>だけの变化から答えを出し、誤っている。</p> <p>(2) 反比例の関係を式に表す 正答率は46%である。無答が多いが、これは、文字を使って式を表すことに慣れていないためと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 積一定の規則に従って、表を完成させるようにしたい。</li> <li>◦ 文字の使用については、形式的にならないよう、この单元以外でも留意したい。</li> </ul>
<p>9. 柱状グラフ</p> <p>正答率は40%と低い。題意を正しく読み取っていないための誤りが目立つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 柱状グラフと棒グラフの違いをよく理解させるようにしたい。</li> </ul>
<p>領域④（数量関係）について</p> <p>比や統計の見方に関する内容が、よく理解されていない。形式的な指導になりがちなので、教材の扱いには工夫が必要である。</p> <p>二量間の関係をとらえる問題では、比例や反比例の特徴がよく理解されていない。また、関係の式表示や変形、柱状グラフの読み方などについての指導にも工夫が欲しい。</p>	

◎ 第6学年算数についてのまとめ

領域別に見ると、「数と計算」や「図形」に比べ「量と測定」の平均正答率は、かなり低くなっている。「量と測定」の領域でも特に単位換算の正答率が低くなっている。その他、領域別に陥没点を見ると、「数と計算」では、分数の四則混合算、数直線上の点の読み取りである。また、「図形」では図形の包摂関係、「数量関係」では、比と比の値、統計による推測、柱状グラフの読み取りなどである。いずれも、基礎的・基本的な内容であり、指導上の工夫が必要である。